

三崎魚市場に水揚げされた魚類・X

山田和彦・工藤孝浩

Kazuhiko Yamada and Takahiro Kudo:

Landing fishes of Misaki Fisheries Market, from Sagami Bay, X

はじめに

筆者らは相模湾の魚類相を明らかにするために、三崎魚市場において周辺海域の漁獲物調査を継続している。これまでに522種を記録したが(山田・工藤, 2000), その後新たに23種が追加されたので報告する。

調査方法

三崎魚市場に水揚げされる魚類のうち、相模湾で採集されたものについて、種類、採集場所、採集方法を記録した。調査期間は1999年10月から2000年9月までの1年間である。1ヶ月平均5回、合計62回の調査を行った。ここでいう相模湾とは、伊豆半島石廊崎と房総半島州崎を結んだ線以北のうち、観音崎ー富津岬以北の東京湾を除く海域である。採集場所の名称を図1に示す。標本として採集した魚は、新鮮なうちに写真撮影したのち10%ホルマリンで固定した。標本は横須賀市自然博

物館に魚類資料(YCM-P)として登録し保存した。

海況について

調査期間中の相模湾付近における海況は、概略次のとおりであった。

黒潮は、1999年10月に伊豆諸島の西側を北上して石廊崎沖で東方へ転じ、相模湾に接近して流れた。11月から2000年3月までは八丈島以南から外房沖へと蛇行し、大きく離岸した。4, 5月はやや接岸して八丈島から三宅島の間を流れたが、6~8月は再び大きく離岸し青ヶ島以南を流れた。9月中旬には野島崎沖に接岸し、一時的に相模湾内に暖水が波及した。

相模湾周辺の水温は、1月後半と4月を除いて平年並みから高めで推移した。しかし、最近2年間にみられたような強い黒潮系暖水の波及はみられず、平年偏差で2℃以内の昇温にとどまった。

調査結果

新たに記録された魚類について、通し番号、和名、学名、図版番号、採集年月日、採集場所および採集方法、全長(TL)、登録番号、分布記録などの順に記載した。和名、学名および一般的な分布記録は中坊編(1993)に従った。

523. ハナレハダカ *Diaphus malayanus* (図2-1)

1999年10月11日、三戸定置網、TL: 49.9mm, YCM-P31803

南日本から、インド・太平洋の温暖海域に分布し、中深層に生息する。相模湾からは初記録と思われる。頭部の発光器は破損していたが、胸鰭上発光器の位置が高く発光鱗が小さい、腹鰭上発光器の位置が低い、口裂は眼径の2倍以上ある、体高がやや高いなどの特徴から本種とした。

524. クロシオハダカ *Diaphus kuroshio* (図2-2)

2000年4月2日、昆沙門定置網、TL: 57.3mm, YCM-P31804

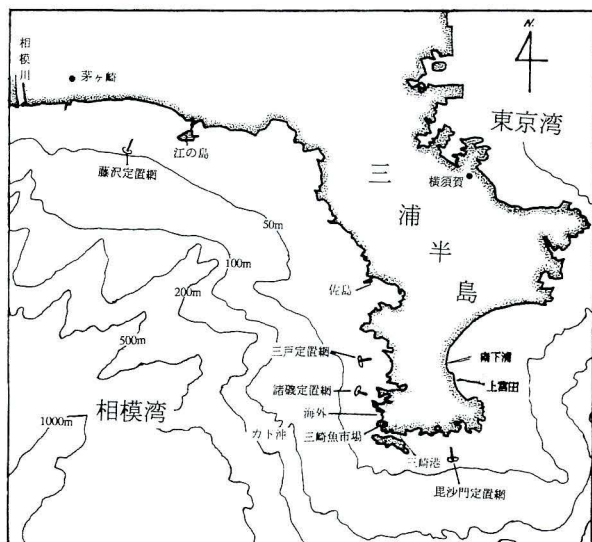


図1. 採集地および周辺海域の水深。

東北地方以南、西太平洋の温・熱帯海域に分布し、中深層に生息する。相模湾からは初記録と思われる。眼径が大きく体高がやや高い、腹鰭上発光器は胸鰭上発光器より低い、1番目の前部臀鰭発光器の位置は高い、腹鰭は長く肛門に届くなどの特徴から本種とした。

525. ゴコウハダカ *Ceratoscopelus warmingii* (図2-3)

2000年9月27日、毘沙門定置網、TL:82.4mm, YCM-P31805

東北地方以南、世界の温暖海域に分布し、中深層に生息する。相模湾からは初記録と思われる。本種の特徴である腹部の発光鱗は失われていたが、眼が大きく体高が低い、胸鰭が長い、臀鰭は14条、胸鰭上発光器は側線の近くにある、6番目の前部臀鰭発光器の位置が高いなどの特徴から本種とした。

526. リュウグウノツカイ *Regalecus russellii* (図2-4)

2000年1月19日、諸磯定置網、残存部全長:325mm, YCM-P31788

日本周辺、東部北太平洋、インド洋に分布する。本州太平洋側では銚子沖から鹿児島湾まで記録がある。相模湾でも、海岸に打ち上げられたり定置網で漁獲された個体が、新聞記事や水族館の展示物になったことはあったが(1994年9月27日の読売新聞神奈川版など)、標本に基づいた文献記録はない。本個体が漁獲された1月19日前後の海況をみると、相模湾奥に急激な暖水流入の出現がみられた。その翌日には湾奥の大磯海岸にアカマンボウが打ち上げられている(2000年1月21日の神奈川新聞)。これらのことは、リュウグウノツカイの生息場所が温暖な中層水であろうとする西村(1962)の指摘を指示しているように思われる。なお、本個体は漁獲時に損傷し、体の後半を失っている。塩原(1991)などの図から全体のプロポーシオンを推定すると、体長約60cmと思われる。国内におけるリュウグウノツカイの幼魚の記録としては3例目に当たる。本個体の体色は成魚のものに似て、銀白色の地に瞳孔大の黒斑が散在していた。腹鰭は頭長の約3倍で、ほとんど曲がることなく斜め後方へ伸長し、先端部がやや広がっている。頭部ならびに残存する体の形状も、成魚のものに近い。一方、体表はなめらかで突起物はなく、少しふれただけで表皮が失われてしまった。背鰭鰭条は長く、体高とほぼ同じである。また背鰭前部の鰭条は、塩原(1991)の幼魚(体長285mm)のものと同様に前方を向いているが、途中から失われているために全体の形状はわからない。このように、本個体は幼魚から成魚への形態的変化の途中にあるものと思われる。

527. ヒフキヨウジ *Trachyrhamphus serratus* (図2-5)

2000年4月7日、藤沢定置網、TL:310mm, YCM-P31806

南日本からインド洋まで分布し、浅海の砂底に生息する。相模湾では熱海(瀬能ほか,1998)から記録がある。

528. ウチダトビウオ *Cypselurus naresii* (図2-6, 7)

2000年7月30日、藤沢沖定置網、TL:205mm, YCM-P31789

房総半島以南、西部太平洋の熱帯海域に分布する。幼魚が横浜市野島海岸で採集されているが(工藤・中村,1999)、相模湾からは初記録と思われる。体型はアヤトビウオに似てずんぐりとしている。胸鰭はくすんだ暗緑褐色であった。

529. サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta* (図2-8)

1999年10月17日、海外(かいと)刺網、TL:89.0mm, YCM-P31807

南日本から南シナ海まで分布し、浅海の岩礁に生息する。相模湾では三浦半島南西部(工藤・岡部,1991)、芝崎(萩原・長谷川,1990)、西湘定置網(林・西山,1980)、田ノ浦湾(東ほか,1989)から記録がある。

530. ヤナギノマイ *Sebastes steindachneri* (図2-9)

2000年5月5日、上宮田水深60m刺網、TL:188.3mm, YCM-P31834

東北地方からオホーツク海まで分布するとされるが、宮城県以南の記録はない(金山・北川,1983;佐藤・長谷部,1982;酒井,1986;船橋,1998など)。相模湾からは初記録であり、本種の南限を大幅に更新した。漁獲前の数ヶ月間、関東沿岸は寒流生魚類を南下させるような海況ではなかった。また、本種は強い遊泳力を持たないため、いかにして相模湾に出現したのか今後の検討課題である。

531. オオモンハタ *Epinephelus areolatus* (図2-10)

1999年11月3日、毘沙門定置網、TL:234mm, YCM-P31808

南日本からインド・西太平洋に分布する。相模湾では熱海(瀬能ほか,1998)から記録がある。

532. クロイシモチ *Apogon niger* (図2-11)

2000年7月23日、毘沙門定置網、TL:76.0mm, YCM-P31790

神奈川県から南シナ海に分布する。内湾性で、相模湾では天神島(林,1995)、田ノ浦湾(東ほか,1989)から記録がある。

533. イケカツオ *Scomberoides lysan* (図2-12)

1999年10月24日、三戸定置網、TL:91.8mm, YCM-P31809

南日本からインド・西太平洋分布する。幼魚は河口域でよく見られ、相模湾でも相模川河口で採集されているほか(長峯・浜口,1980)、西湘定置網

(林・西山, 1980) から記録がある。背鰭棘はたたむと一列になるが、立てると交互に左右に突き出す。

534. **ダイミョウサギ** *Gerres japonicus* (図 3-1)

2000年1月16日, 佐島定置網, TL: 183mm, YCM-P31627

三重県以南, フィリピンまで分布する。相模湾では長者ヶ崎 (中村, 1970) から記録がある。本種の北限記録となる。

535. **ニセクロホシフエダイ** *Lutjanus fulviflamma* (図 3-2)

1999年11月7日, 毘沙門定置網, TL: 183mm, YCM-P31810

琉球列島からインド・西太平洋の熱帯海域に分布する。相模湾では1990年に三浦半島南西部 (工藤・岡部, 1991), 天神島 (林, 1995) から記録がある。1990年と1999年は, 三浦半島沿岸に黒潮系暖水が強く影響し, 非常に多くの死滅回遊魚が出現した。本種もこのような海況の時にだけ現れるものと思われる。

536. **ウメイロ** *Paracaesio xanthura* (図 3-4)

2000年5月4日, 毘沙門定置網, TL: 141mm, YCM-P31791

南日本からインド・西太平洋に分布する。相模湾では熱海沖 (瀬能ほか, 1998) から記録がある。

537. **ヒゲソリダイ** *Haplogenyus nitens* (図 3-5)

2000年9月15日, 藤沢沖定置網, TL: 253mm, YCM-P31792

下北半島から東シナ海に分布する。本州太平洋側では個体数は少なく, 相模湾からは初記録である。

538. **オジサン** *Parupeneus multifasciatus* (図 3-6)

1999年11月3日, 毘沙門定置網, TL: 74.5mm, YCM-P31811

南日本からインド・西太平洋の温暖海域に分布する。相模湾では三浦半島南西部 (工藤・岡部, 1991), 天神島 (林, 1995), 芝崎 (萩原・長谷川, 1990), 熱海 (瀬能ほか, 1998), 田ノ浦湾 (東ほか, 1989) から記録がある。

539. **ハタタテダイ** *Heniochus acuminatus* (図 3-7)

2000年2月13日, 毘沙門定置網, TL: 145mm, YCM-P31687

下北半島以南, インド・太平洋の温暖海域に分布する。相模湾では三浦半島南西部 (工藤・岡部, 1991), 天神島 (林, 1995), 熱海 (瀬能ほか, 1998) から記録がある。冬期にこのような大型の個体が採集されたことによって, 本種が相模湾で越冬している可能性も考えられる。

540. **コガネスズメダイ** *Chromis analis* (図 3-8)

2000年7月23日, 毘沙門定置網, TL: 93.1mm,

YCM-P31793

伊豆半島, 四国から西部太平洋の温暖海域に分布する。やや深い岩礁に生息し, 相模湾では熱海 (瀬能ほか, 1998) から記録がある。

541. **マルイボダイ** *Ariomma indica* (図 3-9)

2000年9月10日, 藤沢定置網, TL: 155mm, YCM-P31794

若狭湾以南, 東シナ海からインド洋に分布する。相模湾からは初記録である。

542. **ユメアラメガレイ** *Tarphops elegans* (図 4-1)

2000年4月2日, 藤沢沖定置網, TL: 61.3mm, YCM-P31802

福井県から島根県浜田沖と高知県の水深20~40mに分布する。相模湾奥部は砂底域が広がる。江ノ島から平塚沖の水深5~45mの海域では同属のアラメガレイがふつうに分布する (亀井, 1980) が本種の記録はない。相模湾からは初記録である。

543. **ダルマガレイ** *Engyprosopon grandisquama* (図 4-2)

2000年6月18日, 三戸定置網, TL: 85.3mm, YCM-P31795

南日本から, インド・西太平洋に広く分布する。相模湾では田ノ浦湾 (東ほか, 1989) から記録がある。

544. **ババガレイ** *Microstomus achne* (図 4-3)

2000年2月27日, 南下浦刺網, TL: 263mm, YCM-P31729

駿河湾からサハリン, 日本海各地に分布する。相模湾では城ヶ島 (山田, 1999) から記録がある。

545. **アミメウマヅラ** *Cantherhines pardalis* (図 4-4)

1999年10月17日, 三戸定置網, TL: 84.5mm, YCM-P31658

相模湾以南, インド・西太平洋の温暖海域に分布する。相模湾では江ノ島近海 (Hirosaki, 1960), 熱海 (瀬能ほか, 1998) から記録がある。本個体は, 腹部が大きく張り出し特異な形態をしているが, 全体的に茶褐色で, 網目模様にはなっていないが暗色の斑紋があるので, 本種とした。

補 足

508. **フエダイ** *Lutjanus stellatus* (図 3-3)

1999年11月3日, 毘沙門定置網, TL: 188mm, YCM-P31812

本種は山田, 工藤 (2000) で報告したが, 不鮮明な写真しか得られていなかった。今回若魚であるが標本が獲られたので補足記録した。

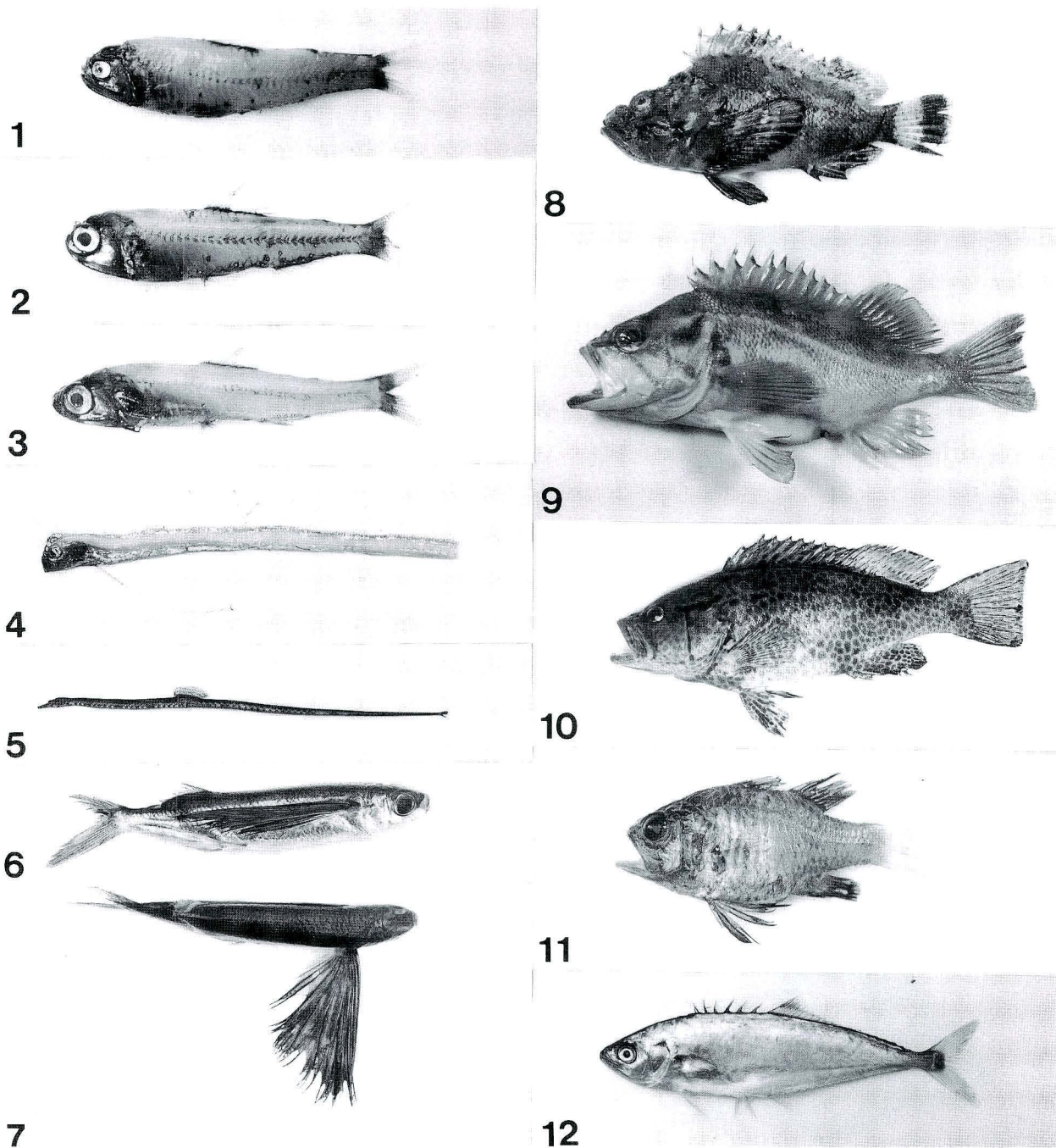
おわりに

本報告を作成するに当たり、標本登録の便を図ってくださり、種々ご教示いただいた横須賀市自然博物館の林 公義氏、国立科学博物館の松浦啓一博士、資料収集にご協力いただいた丸夕丸、丸共丸、共栄丸、諸磯丸、みうら漁協三崎沿岸販売所、神奈川県水産総合研究所の中村良成氏ほかの方々に深く感謝する。

引用文献

- 萩原清司・長谷川孝一, 1990. 葉山町芝崎周辺の沿岸魚類. 神奈川自然誌資料, (11): 103-110.
- 林 公義, 1995. 天神島自然教育園海域の魚類相. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要, 21(1): 243-258.
- 林 公義・西山喜徳郎, 1980. 西湘定置網で漁獲された魚類. 神奈川自然誌資料, (1): 15-27.
- 東 禎三・林 公義・長谷川孝一・足立行彦・萩原清司, 1989. 伊豆半島須崎, 田ノ浦湾周辺海域の魚類. Bull. Coll. Agr. & Vet. Med., Nihon Univ., (46): 175-185.
- Hirosaki, Y., 1960. Some ecological observations on fishes in Sagami Bay appearing together with the drifting sea weeds. *J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI, Zoo.*, 14(3): 435-442.
- 船橋正隆, 1998. 茨城県沿岸の魚類相. 茨城県自然博物館研究報告, (1): 75-96.
- 亀井正法, 1980. 相模湾北岸の砂底沖浜水域に生息する異体類(カレイ・ヒラメ類)の分布. 神奈川県水産試験場研究報告, 1: 81-89.
- 金山 勉・北川大二, 1983. 岩手の魚類Ⅱ. ソイ・メヌケ類. 47pp. 熊谷印刷出版部, 盛岡市.
- 工藤孝浩・中村良成, 1999. 横浜, 川崎および中の瀬海域から初記録の魚類Ⅲ. 神奈川自然誌資料, (20): 45-54.
- 工藤孝浩・岡部 久, 1991. 三浦半島南西部沿岸の魚類. 神奈川自然誌資料 (12): 29-38.
- 益田 一・小林安雅, 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 516pp. 東海大学出版会, 東京.
- 長峯嘉之・浜口哲一, 1980. 相模川汽水域の魚類相. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (3): 21-32.
- 中坊徹次編, 1993. 日本産魚類検索全種の同定. XXXIV+1474pp. 東海大学出版会, 東京.
- 中村一恵, 1970. 相模湾沿岸のタイド・プール魚類. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (1): 1-33. 12pls.
- 西村三郎, 1962. 捕獲状況から考察したリュウグウノツカイの生態. 横須賀市博物館研究報告, 7: 11-21.
- 酒井敬一, 1986. 魚類図鑑南三陸の沿岸魚. 179pp. 志津川町役場, 志津川町.
- 佐藤隆平・長谷部明石, 1982. 原色魚類図鑑—気仙沼市魚市場に水揚げされる魚類—. 89pp. 気仙沼市役所, 気仙沼市.
- 瀬能 宏・牧内 元・武谷 洋, 1998. 魚類写真資料データベース(KPM-NR)に登録された水中写真に基づく熱海産魚類目録. 神奈川自然誌資料, (19): 19-28.
- 塩原美敏, 1991. 駿河湾でとれた大きなリュウグウノツカイと小さなリュウグウノツカイ. *Japan. J. Ichthyol.*, 38(1): 86-88.
- 山田和彦, 1990. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類. 神奈川自然誌資料, (11): 21-28.
- 山田和彦, 1999. 相模湾の北方系魚類. 潮騒だより, (10): 2-6.
- 山田和彦・工藤孝浩, 2000. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・Ⅸ. 神奈川自然誌資料, (21): 25-31.

(山田：相模湾海洋生物研究会，
工藤：神奈川県水産総合研究所)



2. 1 : ハナレハダカ *Diaphus malayanus*, 2 : クロシオハダカ *Diaphus kuroshio*, 3 : ゴコウハダカ *Ceratoscopelus warmingii*, 4 : リュウグウノツカイ *Regalecus russellii*, 5 : ヒフキヨウジ *Trachyrhamphus serratus*, 6, 7 : ウチダトビウオ *Cypselurus naresii*, 8 : サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta*, 9 : ヤナギノマイ *Sebastes steindachneri*, 10 : オオモンハタ *Epinephelus areolatus*, 11 : クロイシモチ *Apogon niger*, 12 : イケカツオ *Scomberoides lysan*.

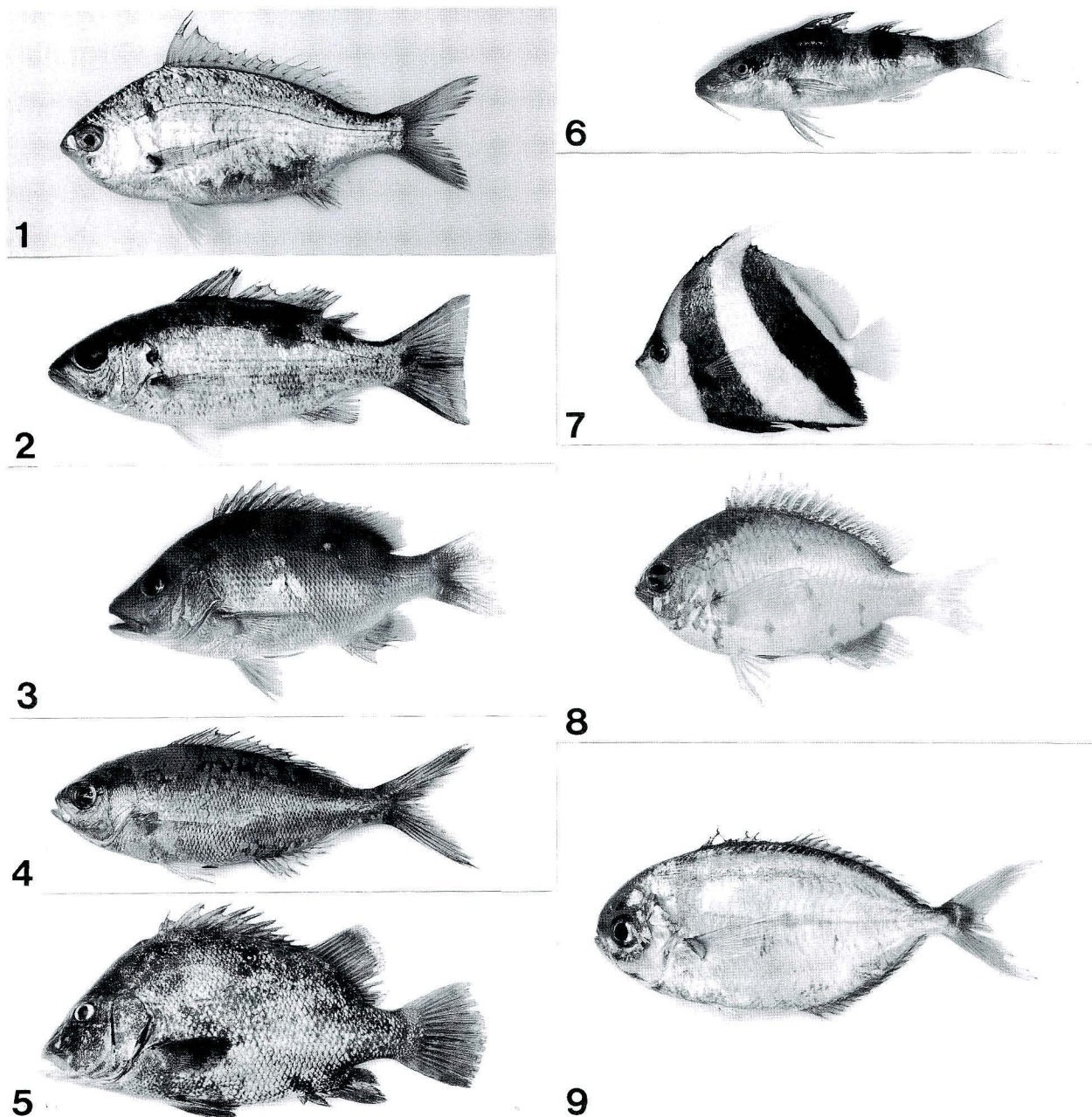
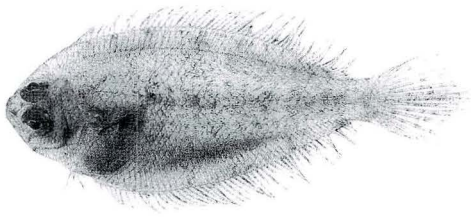
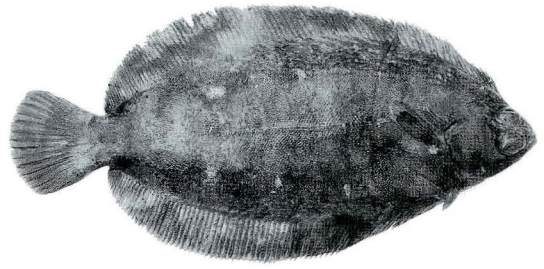


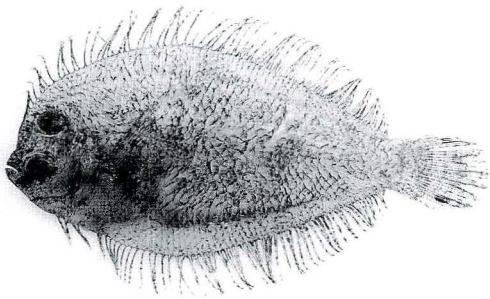
図3. 1: ダイミョウサギ *Gerres japonicus*, 2: ニセクロホシフエダイ *Lutjanus fulviflamma*, 3: フエダイ *Lutjanus stellatus*, 4: ウメイロ *Paracaesio xanthura*, 5: ヒゲソリダイ *Hapalogenys nitens*, 6: オジサン *Parupeneus multifasciatus*, 7: ハタタテダイ *Heniochus acuminatus*, 8: コガネスズメダイ *Chromis analis*, 9: マルイボダイ *Ariomma indica*.



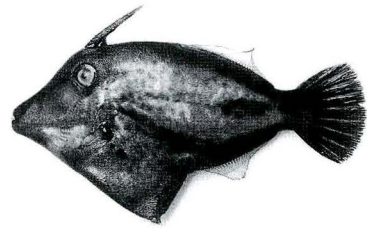
1



3



2



4

図4. 1 : ユメアラメガレイ *Tarphos elegans*, 2 : ダルマガレイ *Engyprosopon grandisquama*, 3 : ババガレイ *Microstomus achne*, 4 : アミメウマヅラ *Cantherhines pardalis*.